

FY2025 1Q

2026年3月期 第1四半期決算説明資料

2025年8月8日

品質向上のトータルサポート企業

バルテス・ホールディングス株式会社
(証券コード：4442)

CONTENTS

1.	エグゼクティブサマリ	P.3
2.	第1四半期決算概況	P.10
3.	業績見通し	P.28
4.	生成AIテストツール開発投資方針	P.30
5.	成長戦略（新中期経営計画）	P.33
6.	ソフトウェアテスト事業環境	P.37
7.	自社の強み	P.41
8.	会社概要	P.48

※ 前期の数値は、企業結合会計の暫定的な会計処理から確定後の内容に変更しているため、前年中に開示した数値と異なります。

1

エグゼクティブサマリ

エグゼクティブサマリ (前年同期比)

	実績	前年同期比	
売上高	 27.4 億円	+12.7%	 前年同期比+12.7%の過去最高売上
営業利益	0.9 億円	+1億円	 ソフトウェアテスト事業において 売上総利益率向上 前年同期を大幅に上回る
親会社株主に 帰属する四半期純利益	0.5 億円	+6千万円	 前年同期を大幅に上回る
単価 (ソフトウェアテスト)	 826 千円	+70千円	 単価は前年同期比で増加
案件数	 1,675 件	+536件	 総案件数は順調に増加 (内、ツール案件数は前年同期比+253件)
稼働エンジニア数 (2025年6月末時点)	 1,240 名	正社員,契約社員,BP 合計 +63名 正社員 ▲4名	 正社員はほぼ前年並み、ビジネスパート ナーの増加で受注増をカバーしつつ、 生産性も担保できている状況

「生成AIテストツール開発への積極投資方針」に基づき、2Q以降（主に下半期）以下対象※1へ 年計4億円の投資を見込む

投資対象

01 生成AIテストツール開発

02 生成AIテストツールの
マーケティング強化

03 AI人材を含むハイクラス
人材の採用強化

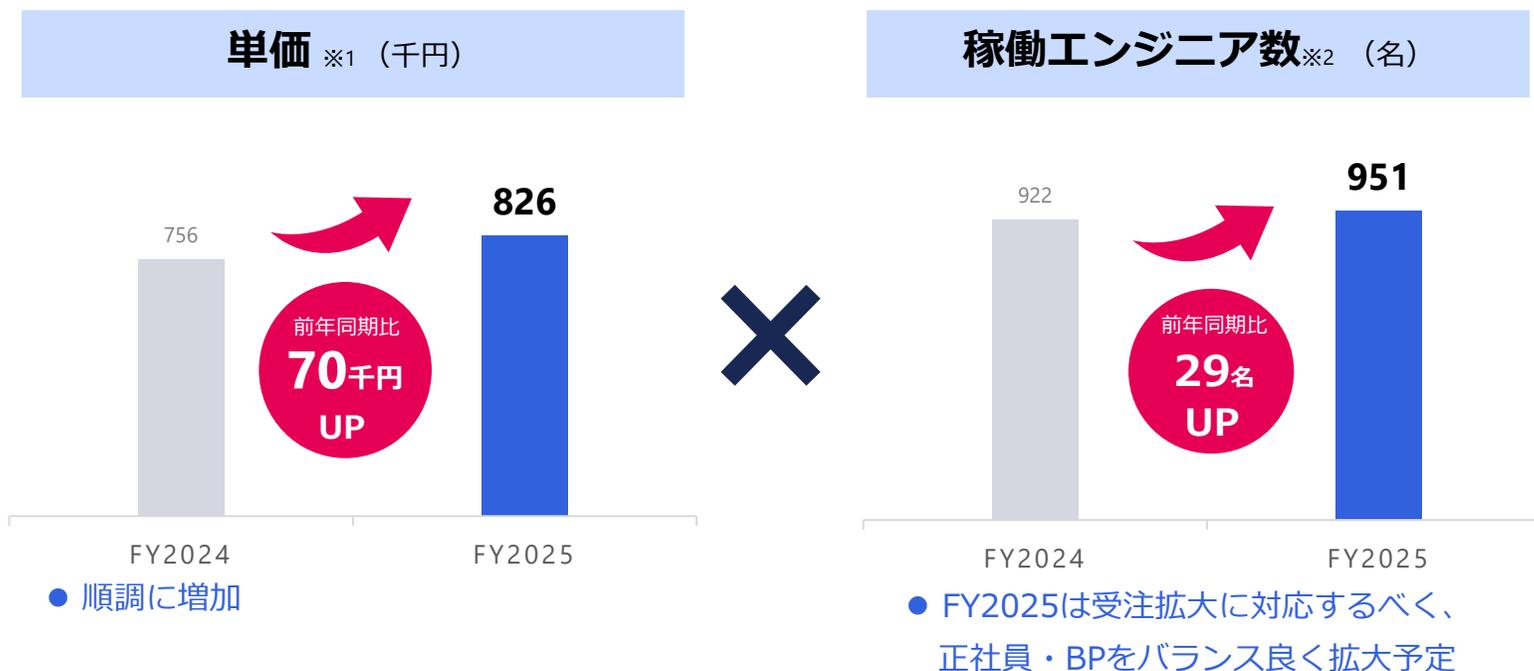
投資対象	FY2024 実績		FY2025 予想			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	対FY2024 増減 (百万円)	対FY2024 (%)
売上高	10,795	100.0	12,000	100.0	+1,204	+11.2
営業利益	940	8.7	650	5.4	△290	△30.9
(参考) AI投資前営業利益	940	8.7	1,050	8.8	+109	+11.6
EBITDA ※2	1,182	11.0	930	7.8	△252	△21.3
経常利益	944	8.7	647	5.4	△297	△31.5
親会社株主に 帰属する当期純利益	589	5.5	390	3.3	△199	△33.8
1株当たり 当期純利益 (円)	29.23	-	19.69	-	-	-

※1 PM層/ハイレイヤー及び営業人員不足によるボトルネック解消施策投資を含む

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 (PPA含む) で算出

業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報や予測等に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

単価、稼働エンジニア数共に順調に増加



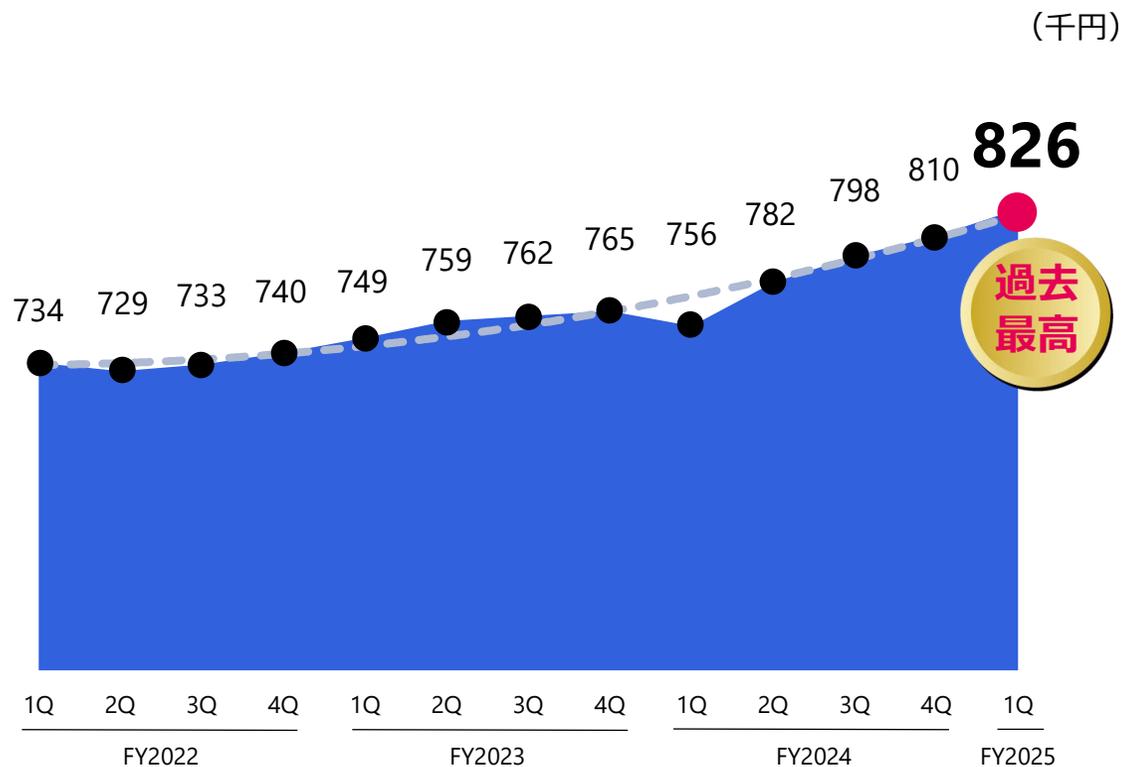
※1 単価（月間） = 国内ソフトウェアテストセグメントの売上高 ÷ 国内エンジニア数の延べ人数（正社員+契約社員+ビジネスパートナー）

※2 本項記載の数値に関しては、国内ソフトウェアテストのみの集計となるため、本資料のエグゼクティブサマリー記載の「稼働人員数」の数値とは異なります。

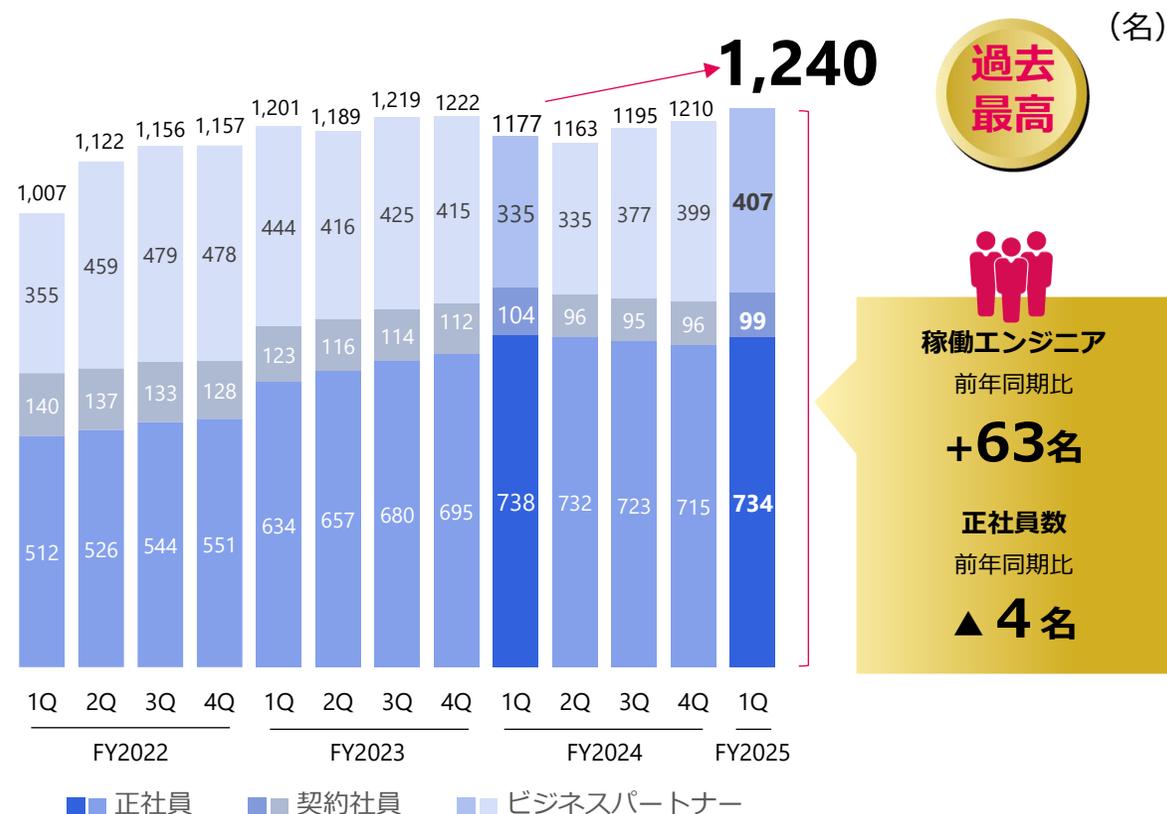
単価の推移（ソフトウェアテスト）、稼働エンジニア数の推移（連結）

単価826千円、エンジニア数1,240名、更なる成長へ向け稼働エンジニア数を増加

エンジニア1人当たりの売上高（月間）※（ソフトウェアテスト）



稼働エンジニア数（連結）



※ エンジニア1人当たりの売上高（月間）＝
ソフトウェアテストの売上高 ÷ エンジニア数の延べ人数（正社員+契約社員+ビジネスパートナー）



新中期経営計画発表

- ・ **新中期経営計画**を2025年6月30日に発表



バルテス株式会社 新社長就任

- ・ 2025年7月1日付で新社長として**田邊 浩一**が就任



東京本社拡張

- ・ 従来面積の**約2倍**に拡張
業務効率の向上及び働きやすい職場環境の実現を目的にオフィスの拡張



「くるみん認定」取得

- ・ 仕事と子育ての両立支援に向けた取り組みが**評価**され「くるみん認定」を**取得**



ツールビジネス好調

- ・ 前年同期比**263%**の**+253件**獲得

ボトルネック 成長阻害要因

ボトル
ネック
01

PM層/ハイレイヤー等の
PJ推進人材不足

ボトル
ネック
02

営業人員の離脱・不足による
営業キーマンの負担増

ボトルネック解消施策

▶ 組織新設・採用強化

PM層/ハイレイヤー採用に適した独立組織をホールディングス内に
新設

▶ ハイスキル教育制度構築

PM層/ハイレイヤー拡大のための教育制度の構築

▶ グループ内教育・ローテーション

自社グループ内のPM層/ハイレイヤーをグループ内ローテーショ
ンにより活用

▶ 営業人員採用

営業人員の増強による営業効率の適正化を図る

施策進捗状況 2025年8月時点

▶ PM層/ハイレイヤー 増加実績

+ **1** 人

(※ 2025年5月14日の前期決算
発表時対比 8月8日現在)

(参考) +18人

(2023年12月末～2025年5月14日累計)

▶ 営業人員増加実績

+ **3** 人

(※ 2025年5月14日の前期決算
発表時対比 8月8日現在)

(参考) +18人

(2023年12月末～2025年5月14日累計)

※前期決算発表時の2025年5月14日との比較に変更いたしました。

2

第 1 四半期決算概況

ボトルネック解消施策の効果により、
 案件数は増加傾向にあり、売上高は過去最高となった。

	FY2024 1Q		FY2025 1Q			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	前年増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	2,439	100.0	2,748	100.0	+309	+12.7
営業利益	▲3	▲0.2	99	3.6	+102	-
EBITDA ※	45	1.9	164	6.0	+118	+259.0
経常利益	▲1	▲0.1	96	3.5	+97	-
親会社株主に 帰属する四半期純利益	▲8	▲0.3	53	1.9	+61	-
1株当たり四半期純利益 (円)	▲0.41	-	2.68	-	-	-

※ EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費で算出

売上高、営業利益 四半期推移 (会計期間)

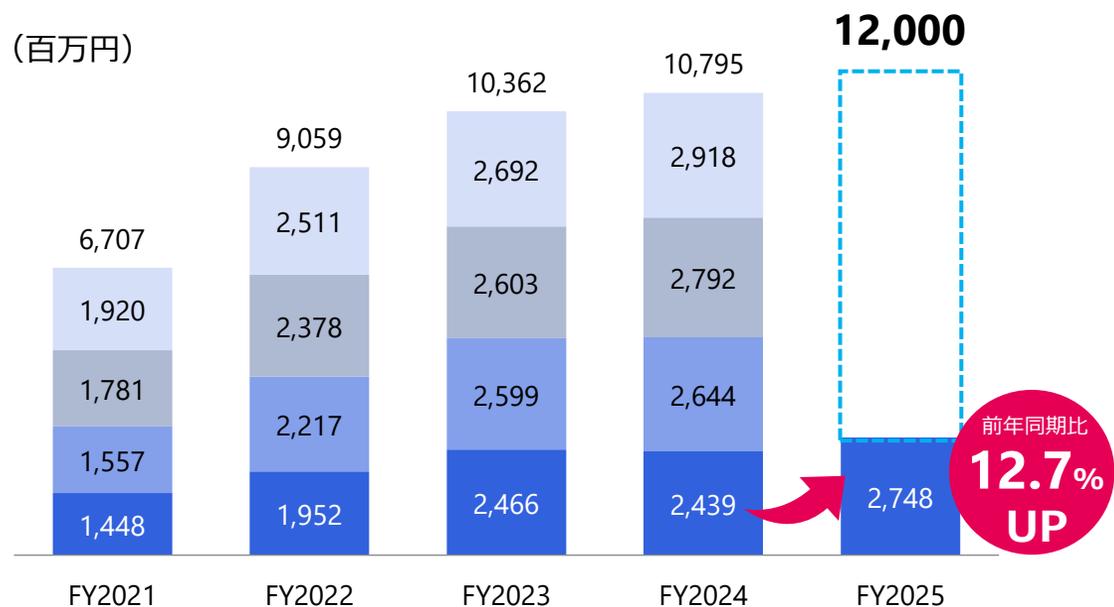
売上高

ボトルネック解消施策の効果により案件数は**増加傾向**、第1四半期売上高としては**過去最高**となった

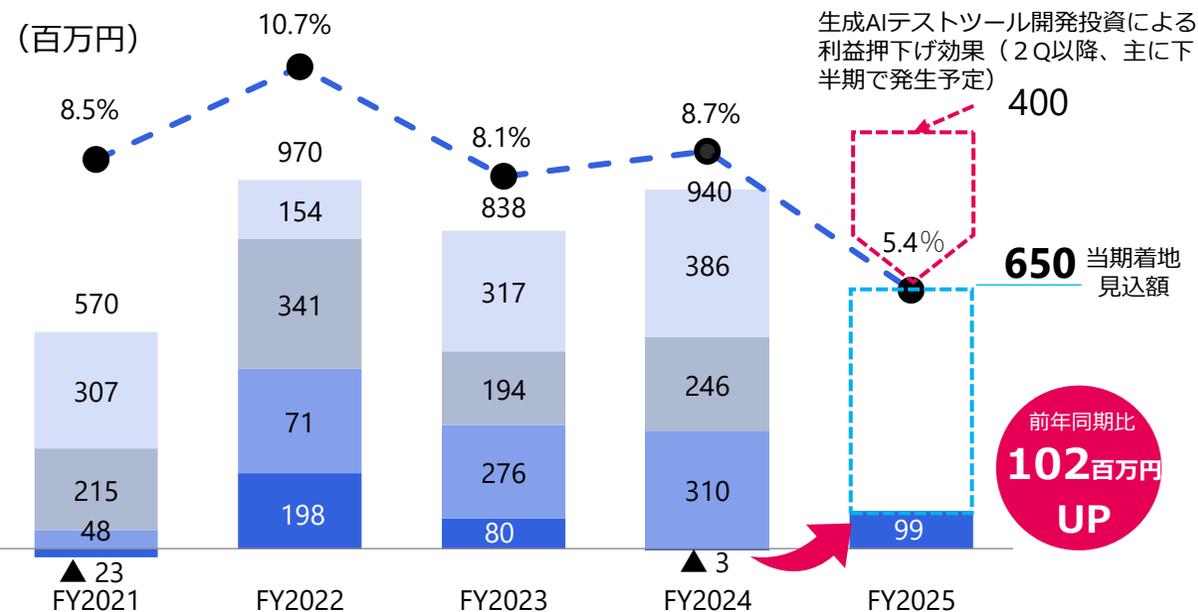
営業利益

売上高の伸長、ソフトウェアテスト事業の利益率向上により、
前年同期を**1億2百万円**も上回る**99百万円**となり、当期を含む直近3期において**最高**となった

売上高

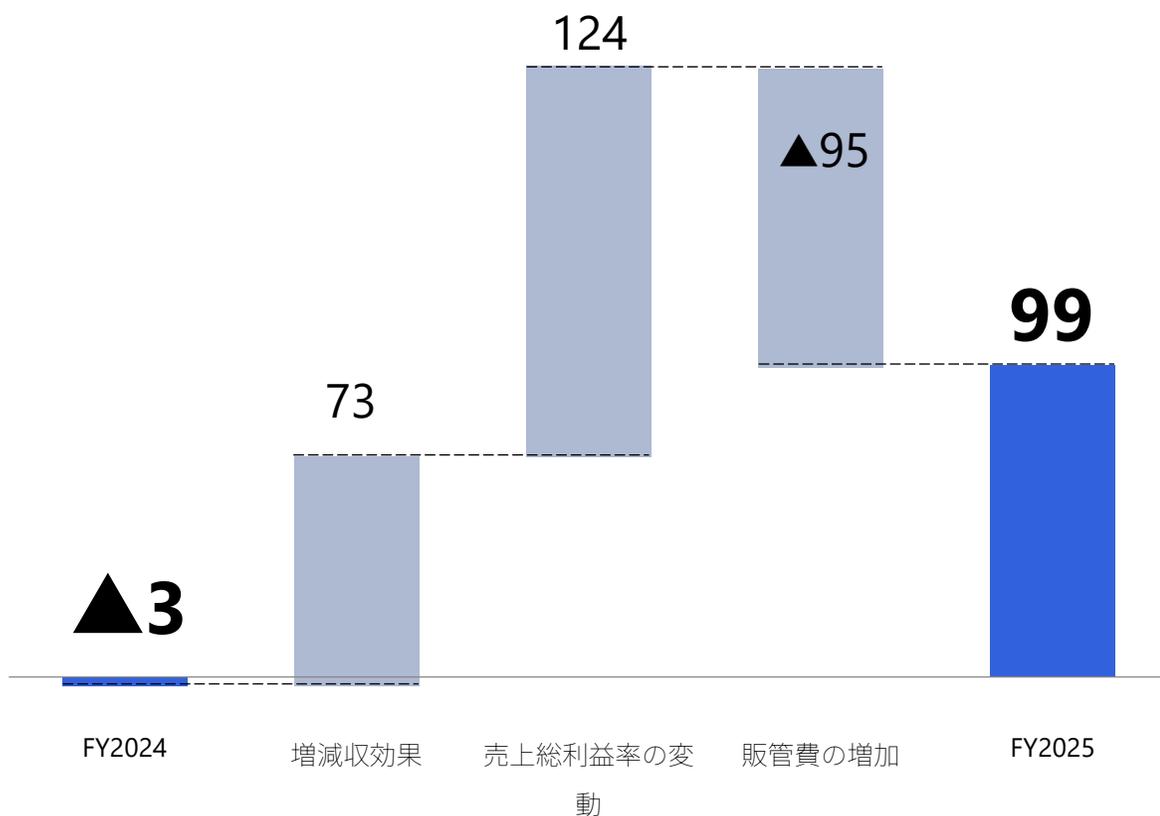


営業利益



ソフトウェアテスト事業の利益率向上、営業利益は前年対比**102百万円増加**となった。

(百万円)



増減収効果 +73	ソフトウェアテスト +60 開発 +8 セキュリティ +3
売上総利益率の変動 +124	ソフトウェアテスト事業の利益率が向上、 開発事業は前期不採算案件の影響により損失が発生するも、今期は正常化 ソフトウェアテスト +38 開発 +83 セキュリティ +3
販管費の変動 ▲95	のれん償却費、株主優待コスト、 社員総会コスト等 その他販管費が増加 人件費 ▲26 採用費 +5 研究開発費 ▲1 その他 ▲73

組織拡大に伴う人件費が増加、前年下半期にグループインしたタビュラ社ののれん償却費、株主優待コストや社員総会の実施により、販管費が95百万円増加

	FY2024 1Q (百万円)	FY2025 1Q		
		(百万円)	前年増減 (百万円)	前年同期比 (%)
販管費	584	680	+95	+16.3
人件費	232	259	+26	+11.5
採用費	90	85	▲5	▲6.3
研究開発費	21	22	+1	+6.2
その他	240	313	+73	+30.5

人件費	+26	組織拡大に伴う増加
採用費	▲5	計画通り
研究開発費	+1	生成AI投資を進めるも主に資産計上 研究開発費としては例年並
その他	+73	タビュラ社グループインによるのれん償却、株主優待コスト、社員総会コスト

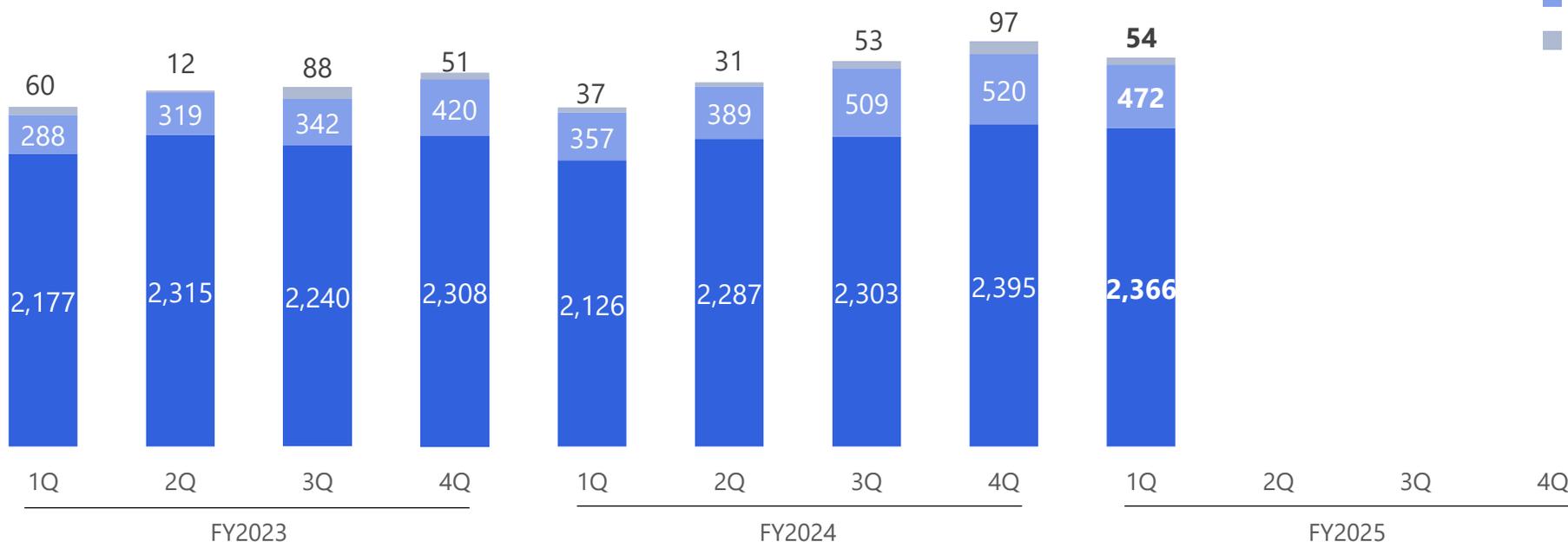
事業別セグメント実績

	FY2024 1Q		FY2025 1Q			
	実績 (百万円)	利益率 (%)	実績 (百万円)	利益率 (%)	前年同期比 (%)	(pt)
売上高	2,439		2,748		+12.7	
ソフトウェアテスト	2,126		2,366		+11.3	
開発	357		472		+32.2	
セキュリティ	37		54		+46.0	
連結消去	▲81		▲144			
営業利益 (利益率)	▲3	(▲0.2)	99	(3.6)	-	(+3.8)
ソフトウェアテスト	90	(4.3)	137	(5.8)	+51.2	(+1.5)
開発	▲71	(▲19.9)	▲9	(▲2.1)	-	(+17.8)
セキュリティ	▲4	(▲13.1)	▲0.2	(▲0.6)	-	(+12.6)
連結消去	▲18		▲28			

各セグメント 前年同期に比べて順調に売上増加、連結1Q売上高は過去最高

(百万円)

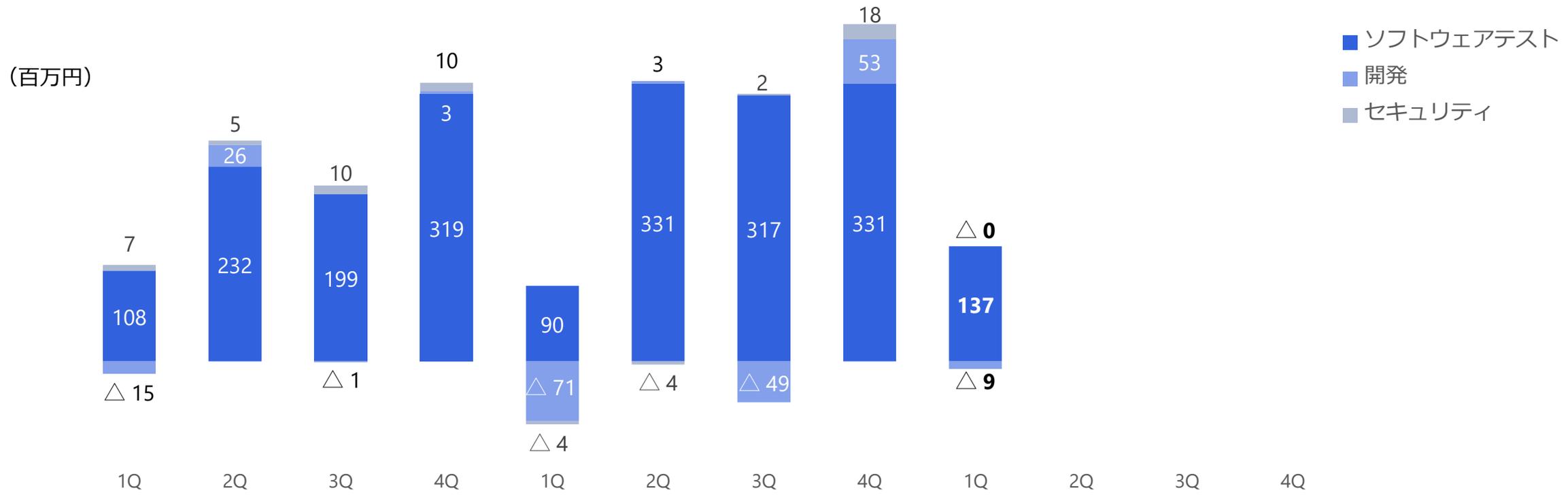
- ソフトウェアテスト
- 開発
- セキュリティ



連結1Q 売上高	2,466百万円	2,439百万円	2,748 百万円
-------------	----------	----------	------------------

※ 株式会社シンフォーをFY2023 1Qより、フェアネスコンサルティング株式会社(現バルテス・イノベーションズ株式会社に吸収合併)をFY2023 3Qより、
 タビュラ株式会社をFY2024 3Qより新規連結しております。
 ※ 各セグメント売上の合計からセグメント間取引消去を調整するため、3セグメントの合計と連結売上高は異なります。

各セグメント 前年同期に比べ業績改善、連結営業利益は直近3期で最高



FY2023

FY2024

FY2025

連結1Q 営業利益	80百万円	▲3百万円	99百万円
--------------	-------	-------	-------

※ 株式会社シンフォーをFY2023 1Qより、フェアネスコンサルティング株式会社(現バルテス・イノベーションズ株式会社に吸収合併)をFY2023 3Qより、
タビュラ株式会社をFY2024 3Qより新規連結しております。
※ 各セグメント売上の合計からセグメント間取引消去を調整するため、3セグメントの合計と連結売上高は異なります。

	FY2024 1Q		FY2025 1Q			
	実績 (百万円)	売上高比 (%)	実績 (百万円)	売上高比 (%)	前年増減 (百万円)	前年同期比 (%)
売上高	2,439	100.0	2,748	100.0	+309	+12.7
売上原価	1,858	76.2	1,969	71.6	+110	+6.0
労務費	1,176	48.2	1,231	44.8	+54	+4.6
外注費	587	24.1	624	22.7	+36	+6.2
その他	93	3.8	113	4.1	+19	+21.0
販管費	584	24.0	680	24.8	+95	+16.3
人件費	232	9.5	259	9.4	+26	+11.5
採用費	90	3.7	85	3.1	▲5	▲6.3
研究開発費	21	0.9	22	0.8	+1	+6.2
その他	240	9.9	313	11.4	+73	+30.5

バランスシートの状況

資産の部	FY2024	FY2025 1Q末	
	(百万円)	(百万円)	対前期末 (百万円)
現金及び預金	1,937	2,186	+249
売掛金+契約資産	1,697	1,271	▲425
流動資産合計	3,988	3,651	▲336
有形固定資産	285	317	+31
のれん	1,357	1,311	▲45
ソフト+ソフト仮	193	223	+30
無形固定資産合計	1,550	1,534	▲15
投資その他の資産	683	735	+51
固定資産合計	2,519	2,587	+67
資産合計	6,508	6,239	▲269

負債の部	FY2024	FY2025 1Q末	
	(百万円)	(百万円)	対前期末 (百万円)
買掛金	256	222	▲33
短期有利子負債	921	1,115	+194
未払金	545	628	+83
流動負債合計	2,560	2,466	▲93
長期有利子負債	684	660	▲23
固定負債合計	685	662	▲23
負債合計	3,246	3,128	▲117
純資産の部			
株主資本合計	3,250	3,095	▲155
純資産合計	3,261	3,110	▲151
負債純資産合計	6,508	6,239	▲269

ソフトウェアテスト事業

生成AIテストツール開発&実装を
中心に新中期経営計画戦略の実施



生成AIテストツールの
開発&実装で
生産性の向上



自社開発ツールへの
生成AI機能連携で
テスト全行程の自動化



ボトルネック解消
施策の継続

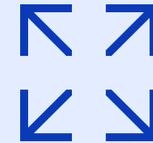
PM層/ハイレイヤー及び営業
人員の採用強化



ツール&教育
人に依存しない
ビジネスの拡大

開発事業

ホールディングス体制の深化
によるグループ間連携の拡充



クロスセル・グループ営業
の強化



M&Aによる顧客課題解決
新技術及び新サービス獲得

セキュリティ事業

セキュリティ対策の
ワンストップサービス



診断員の教育・人員増強



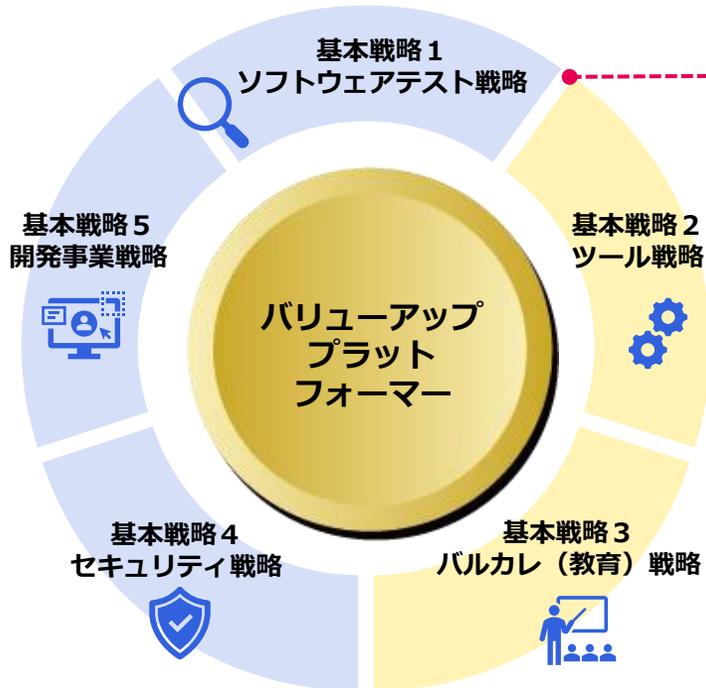
セキュリティサービスの拡充

トピック1 新中期経営計画を発表

2025年6月30日に新中期経営計画を発表

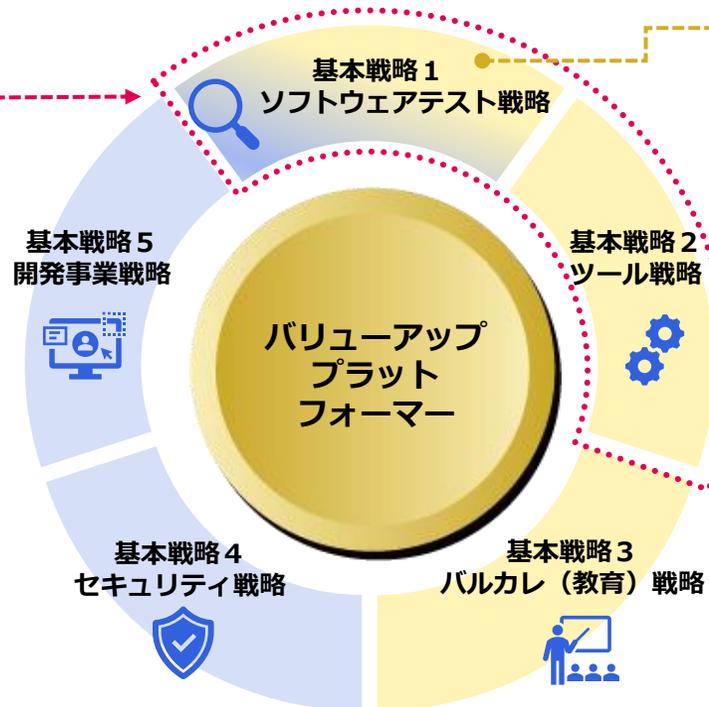
旧中期経営計画

- 人に依存するビジネスモデル
- 人に依存しないビジネスモデル



新中期経営計画

生成AIテストツール開発への積極投資
によって主業であるソフトウェアテスト事業を
「人に依存しないビジネスモデル」化



生成AI技術拡大による
ソフトウェアテスト事業
メリット・目的

生産性向上

価格競争力向上

IT人材採用難でも
利益拡大可能

グループ収益への影響

グループの85%を占める
ソフトウェアテスト事業の
生産性向上で
利益インパクト増加

体制強化を目的に、社長の交代を実施

グループ会社であるバルテス株式会社において**2025年7月1日付で新社長として田邊 浩一**が就任



田中 真史

旧) 代表取締役会長 兼 社長
新) 代表取締役会長

■ ご挨拶

社長交代を機に、新体制のもとで部門や役割の垣根を越えた連携を強化し、一体感ある組織づくりを目指してまいります。私自身は会長として、引き続きグループ全体の方向性やAIなどの重点プロジェクトに関与しながら、人材育成と企業風土の強化に尽力してまいります。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



田邊 浩一

旧) 取締役
新) 代表取締役社長

■ ご挨拶

バルテスは品質を通じて安心・安全なICT社会の実現を目指し、信頼を築いてきました。社長として事業成長に尽力し、理念への原点回帰と技術・価値観のアップデートを推進します。社員が誇りを持てる組織づくりと、人材育成・課題解決に取り組みます。今後ともご期待ください。

■ 略歴

新卒で、日系の大手システム会社に入社。その後、大手電機グループや大手製造業系のIT子会社、外資系ITベンダーにて勤務。

- 2021年1月 バルテス株式会社（現バルテス・ホールディングス株）入社
- 2022年10月 同社 エンタープライズ品質サービス事業部 西日本ソリューション部 部長 就任
- 2023年4月 同社 エンタープライズ品質サービス第2事業部 西日本ソリューション部 部長 就任
- 2024年2月 当社 取締役 就任
- 2025年7月 当社 代表取締役社長 就任（現任）

※なお、田中はバルテス・ホールディングス株式会社の代表取締役会長 兼 社長及びバルテス株式会社の代表取締役会長として、経営全般に引き続き関与してまいります。

生成AIツールの効果的な活用を進めると共に、ツール開発や教育、生成AIに関するガバナンス体制の整備

設立の背景・目的

生成AIを取り巻く環境は急速に進化しており、多種多様なツールが登場しています。一方で「どのツールを使えばよいかわからない」「セキュリティをはじめとした社内ルールに則ると使用しづらい」といった課題もありました。

このような障壁を取り除き、**社員が安心してAIを活用できる環境を整えるため「AI推進技術部」を設立いたしました。**ガバナンス面で許容されるツールの導入を進めることで、社内におけるAI利用を促進させ、“安心・安全”かつ“先進的”にAIを活用する企業文化を構築してまいります。

主な取り組み

- AIツールの選定・導入からガバナンス・実務定着までを一貫支援
- 「AIを“使う”だけでなく、“創る”会社」への進化
- “安心・安全”かつ“先進的”にAIを活用する企業文化醸成

担当者コメント



村上 崇

バルテス株式会社
取締役 兼 R&D事業部
事業部長

■ ご挨拶

生成AIの活用が社内で属人化してしまうことは、社内全体での効果的な活用を進めるうえでの課題となります。

「AI技術推進部」は、生成AI活用の中核を担う存在として全社への支援・推進・教育をおこなってまいります。今後はハンズオン形式の勉強会を実施し、実践的なスキルを高める機会を提供していきたいとも考えております。



齋藤 俊彰

バルテス株式会社
R&D部 部長
兼 AI技術推進部 部長

■ ご挨拶

社内に向けた技術研修や生成AI活用を強化すると共に、バルテスで独自開発した生成AIテスト設計ツール

「TestScape」を中心に、社外向けにサービス展開を加速させていきたいと考えております。将来的には、バルテスの生成AIツールが業界における“当たり前”として認知・利用されるように育ててまいります。

トピック4 AI関連のカンファレンス登壇

AI関連のカンファレンスに積極参加。生成AIやXAI（説明可能なAI）などの先端技術に関するノウハウを広め、**AI活用の信頼性向上と品質保証の重要性**を社会全体へ積極的に発信中



講座名 AIの品質は誰が保証する？品質専門バルテスが支える価値創出の未来

主催 Eight&Me~テレ

日時 2025年6月23日（水）

登壇者 バルテス株式会社
取締役 R&D事業部 事業部長
村上 崇



講座名 AIの成果物が正しいと説明できますか？品質保証専門のバルテスが徹底解説！

主催 スマートキャンプ株式会社

日時 2025年7月2日（水）

登壇者 バルテス・ホールディングス株式会社
品質ビジネスイノベーション部
部長 兼 首席研究員
石原 一宏



講座名 生成 AI を“自分ごと”に。全社を巻き込んだプロダクト開発の舞台裏

主催 TECH PLAY

日時 2025年8月8日（金）

登壇者 バルテス株式会社
R&D部 部長 兼 AI技術推進部 部長
齋藤 俊彰



講座名 2倍の生産性を実現、AI活用による開発プロセス改革
スキルの壁を打ち破る人材活用戦略

主催 ファインディ株式会社

日時 2025年9月2日（火）

登壇者 バルテス株式会社
取締役 R&D事業部 事業部長
村上 崇

業務効率の向上及び働きやすい職場環境の実現を目的として、本社オフィスの拡張を実施

拡張の概要



拡張日

2025年6月2日（月）

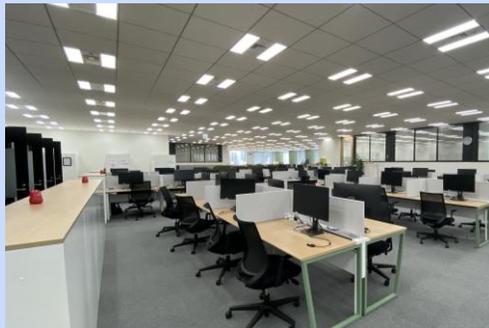
面積

従来の約2倍に拡張

新設設備

- 会議室 3室増
- 個人ブース 4席増
- フリーアドレスデスク 100席以上増

慢性化していた会議室不足や、社員の多様な働き方を支えるスペースの確保を目的に、設備面も強化。



背景・目的

従来の東京においては以下の3拠点

「東京本社」

「東京第2テストセンター」

「東京第3テストセンター」

に社員が分散しておりましたが、

部門間におけるコミュニケーション

機会の向上、業務効率化を図るべく、

東京第3テストセンターの機能を東京本社に統合したうえで、東京本社を拡張する運びとなりました。

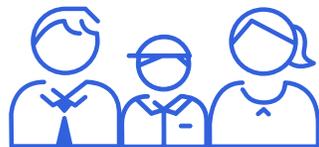
トピック6 子育てサポート企業として「くるみん認定」を取得

「くるみん認定」は、従業員の子育てと仕事の両立支援に積極的に取り組む企業に対して、一定の基準を満たすことで与えられる制度です。当社では、**育児と仕事を両立できる環境づくりを推進**しており、今回の認定はその実績が評価されたものです。今後も社員一人ひとりが安心して働き続けられる職場づくりを目指し、**柔軟な働き方や多様なライフスタイルの支援**を継続してまいります。



■ 主な取り組み内容

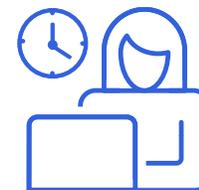
育児休業取得の推進
(男女共に取得実績あり)



フレックスタイム制度や
テレワーク制度の整備



子育てに配慮した
短時間勤務制度の導入



仕事と家庭の両立に向けた
啓発・風土づくりの取り組み





入社お祝い金

100万円 期間限定 採用強化中 プレゼント

対象：採用サイトからご応募いただいた方 ※その他、諸条件あり

実施期間：2026年3月31日まで

当社グループ採用サイトから
直接ご応募・ご入社いただいた方を対象に、
入社お祝い金として
最大100万円をプレゼントする
採用キャンペーンを開始いたしました。

対象者

▶ 2026年3月31日までに当社採用サイトより応募が完了し、ご入社いただいた方

URL : <https://recruit.valtes.co.jp/>

▶ 対象職種

QA エンジニア/品質 PM

テスト自動化推進

ソリューション営業

開発エンジニア

AI エンジニア

インフラエンジニア

セキュリティエンジニア

支給方法

入社後、賞与支給月に半額ずつ分割支給

※支給日に在籍されない場合には支給はございません

※所得税控除対象となります

※社会保険料・翌年度住民税額等に影響する場合がございます

募集背景

グループ全体の事業拡大への対応及び優秀な人材獲得を目的とし、期間限定で本キャンペーンを実施する運びとなりました。

3

業績見通し

「生成AIテストツール開発への積極投資」等※1へ4億円以上の投資を見込む

投資対象

01 生成AIテストツール開発

02 生成AIテストツールの
マーケティング強化

03 AI人材を含むハイクラス
人材の採用強化

投資対象	FY2024 実績		FY2025 予想			
	(百万円)	売上高比 (%)	(百万円)	売上高比 (%)	対FY2024 増減 (百万円)	対FY2024 (%)
売上高	10,795	100.0	12,000	100.0	+1,204	+11.2
営業利益	940	8.7	650	5.4	△290	△30.9
(参考) AI投資前営業利益	940	8.7	1,050	8.8	+109	+11.6
EBITDA ※2	1,182	11.0	930	7.8	△252	△21.3
経常利益	944	8.7	647	5.4	△297	△31.5
親会社株主に 帰属する当期純利益	589	5.5	390	3.3	△199	△33.8
1株当たり 当期純利益 (円)	29.23	—	19.69	—	—	—

※1 PM層/ハイレイヤー及び営業人員不足によるボトルネック解消施策投資を含む

※2 EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費 (PPA含む) で算出

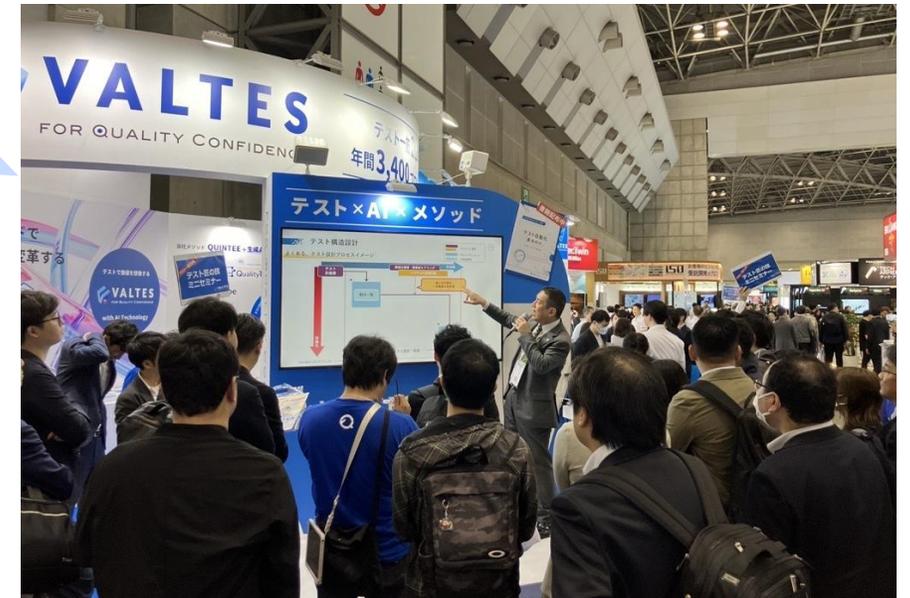
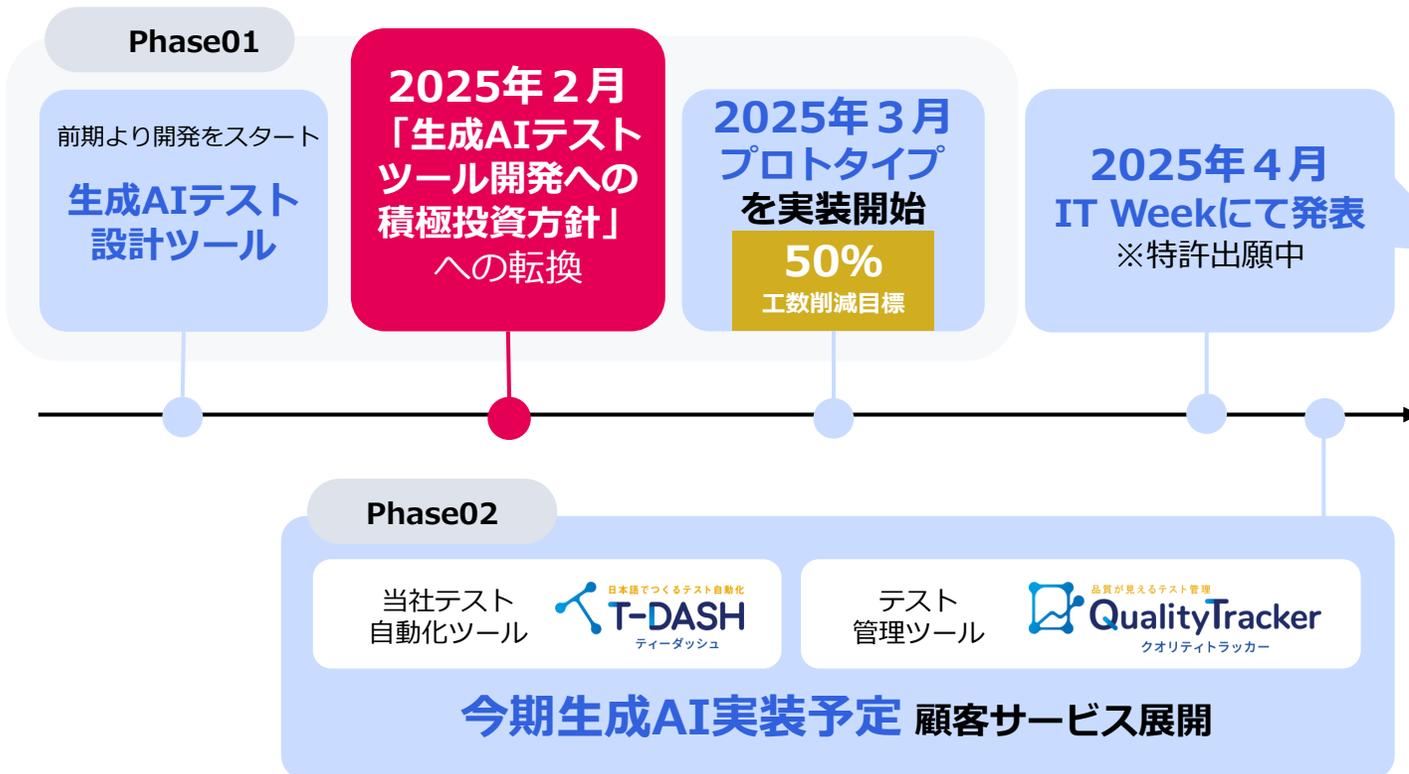
業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報や予測等に基づき作成したものであり、実際の業績は今後の様々な要因によって予想値と大きく異なる可能性があります。

4

生成AIテストツール開発投資方針

「生成AIテスト設計ツール」 自社開発とAI積極投資方針への転換

生成AIの拡大による事業機会とリスクに対応するため、当社ではいち早く「生成AIテスト設計ツール」開発を進めてまいりました。当社が蓄積した膨大な過去抽出データ※を利用することで、本開発は順調に進捗し、**現段階で既に高い精度に達していることから、本年3月にプロトタイプをローンチし、当社グループでの実装を開始**しております。それに先立ち、本年2月にはこれらの開発加速に向けた「生成AIテストツール開発への積極投資」方針への転換を決定しております



当日の**ブース来場者数**は**過去最高**を記録

※ 生成AIテストツール開発における当社の強みは、テスト専門会社として培った豊富な実績データによって、多様なドメインに対し、より実践的で効果的なテストケースを提供できる点にあります。本開発においては顧客情報を一切使用せず、当社内のテスト実績データのみを活用しております。



生成AIテストツール開発における当社優位性

優位性
01

▶ 自社開発のテストツール群によりテスト工程全般を網羅（業界随一）

テスト設計～実行まですべての工程でツールを自社開発、近い将来生成AI連携が可能
当社は既にテスト自動化ツール「T-DASH」をはじめとしたテストツールを自社開発しており、これらのツールに生成AI機能を拡大することで、全てのテスト工程を自動化することが可能です。現時点で、テスト関連ツール群を自社開発しているテスト会社は国内では当社のみであり、国内テスト市場において、大きな優位性を有していると自負しております。

優位性
02

▶ 生成AIテスト設計ツール「TestScape」を先行実装

2025年3月に生成AIテスト設計ツールのプロトタイプ版を実装済

当社は前年より生成AIテスト設計ツールの開発をすすめ、当年2月時点で高い精度に達したことから、3月に社内実装を開始しております。今後は実務領域での同ツール利用を促進することで、生成AI機能の強化を進めてまいります。

優位性
03

▶ ソフトウェアテスト専門事業者として20年にわたる実績

生成AIを利用した開発に必要な専門性の高い情報を大量に保有

当社は年間3000件を超えるテスト設計情報を過去20年間にわたり蓄積しており、「専門性の高い情報を大量に保有」しているため、生成AIの活用に適した状況にあります。



生成AIと描く当社の未来

技術的
未来

ソフトウェアテストの全工程の自動化

当社テスト設計からテスト実施まで、すべての工程において生成AI機能を自社ツールに実装し、各ツールの連携をすすめることで、ソフトウェアテストのすべての工程を自社開発ツールで全自動化することを目指します。

人的
資本

テストエンジニアから AI-テストデザインコンサルタント への成長

当社のテストエンジニアは生成AIテスト設計ツール「TestScape」を始めとした当社開発テストツールとそのAI連携機能の習熟度を高めることで、顧客の開発案件に対し、生成AIテストツールによるテスト自動化の設計提案とその実行を伴走できる戦略的ディレクター「AI-テストデザインコンサルタント」への成長を目指します。



成長戦略（新中期経営計画）

生成AIテストツール開発への積極投資方針を従前の中期経営計画に反映したローリングプラン

▶ 新中期経営計画で内容を更新

中計Vision

ソフトウェアテスト市場の社会的価値を高めるバリューアッププラットフォームへ

▶ 生成AIテストツール開発投資によって最大事業のソフトウェアテスト事業を「労働集約型ビジネス」から「人に依存しないビジネス化」

Visionコンセプト1.2

コンセプト① バルテス品質を業界へ波及させるビジネスモデルの構築
▶ ソフトウェアテスト業界の社会的価値向上で更なる市場拡大を誘引

コンセプト② 生成AIテストツール開発への積極投資によって
人に依存しないビジネスモデルの強化・拡大
▲コンセプト更新
▶ 人に依存しない事業比率向上でグループの生産性を向上

コンセプトに基づく5つの基本戦略

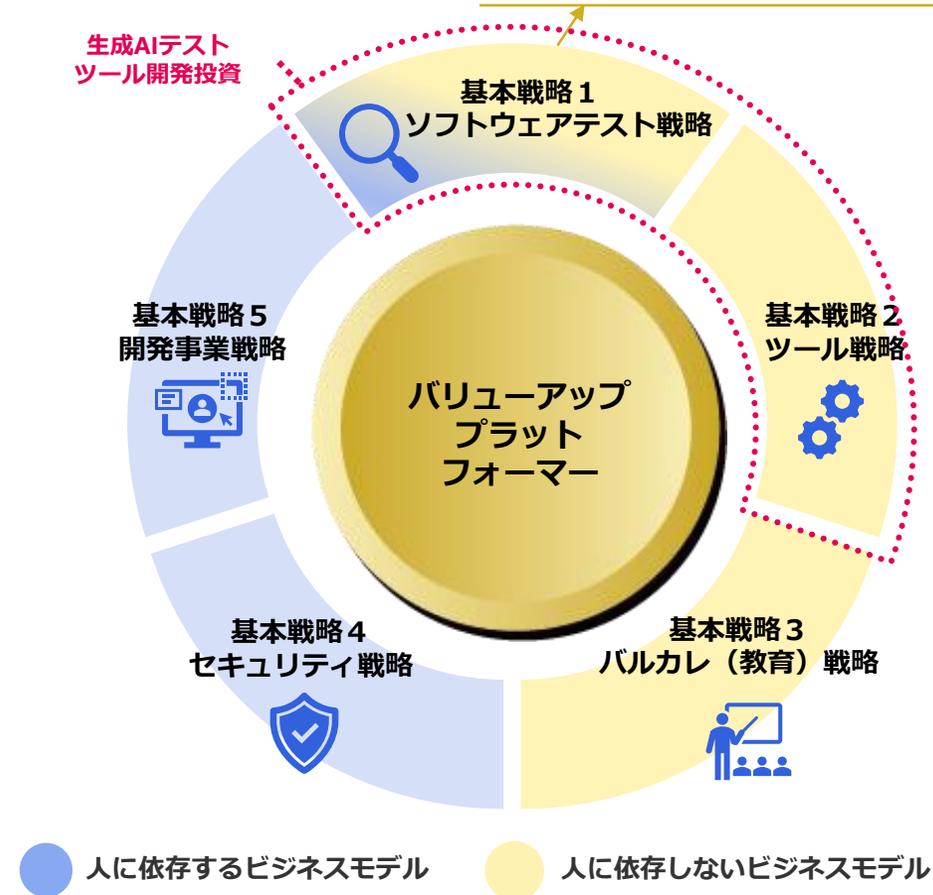
基本戦略1：ソフトウェアテスト戦略 ◀ 生成AIテストツール投資で戦略更新 ◀ ボトルネック解消施策継続

基本戦略2：ツール戦略 ◀ 生成AIテストツール投資で戦略更新

基本戦略3：バルカレ（教育）戦略

基本戦略4：セキュリティ戦略

基本戦略5：開発事業戦略



▶ 新中期経営計画で内容を更新

新中期経営計画（3か年）

■ 生成AIテストツール投資（3か年）

生成AIテストツール開発投資
各年4億円を目安

3か年計 **12** 億円

■ BS戦略投資（3か年）

主にM&A投資
事業所投資

3か年計 **25** 億円

■ 還元施策

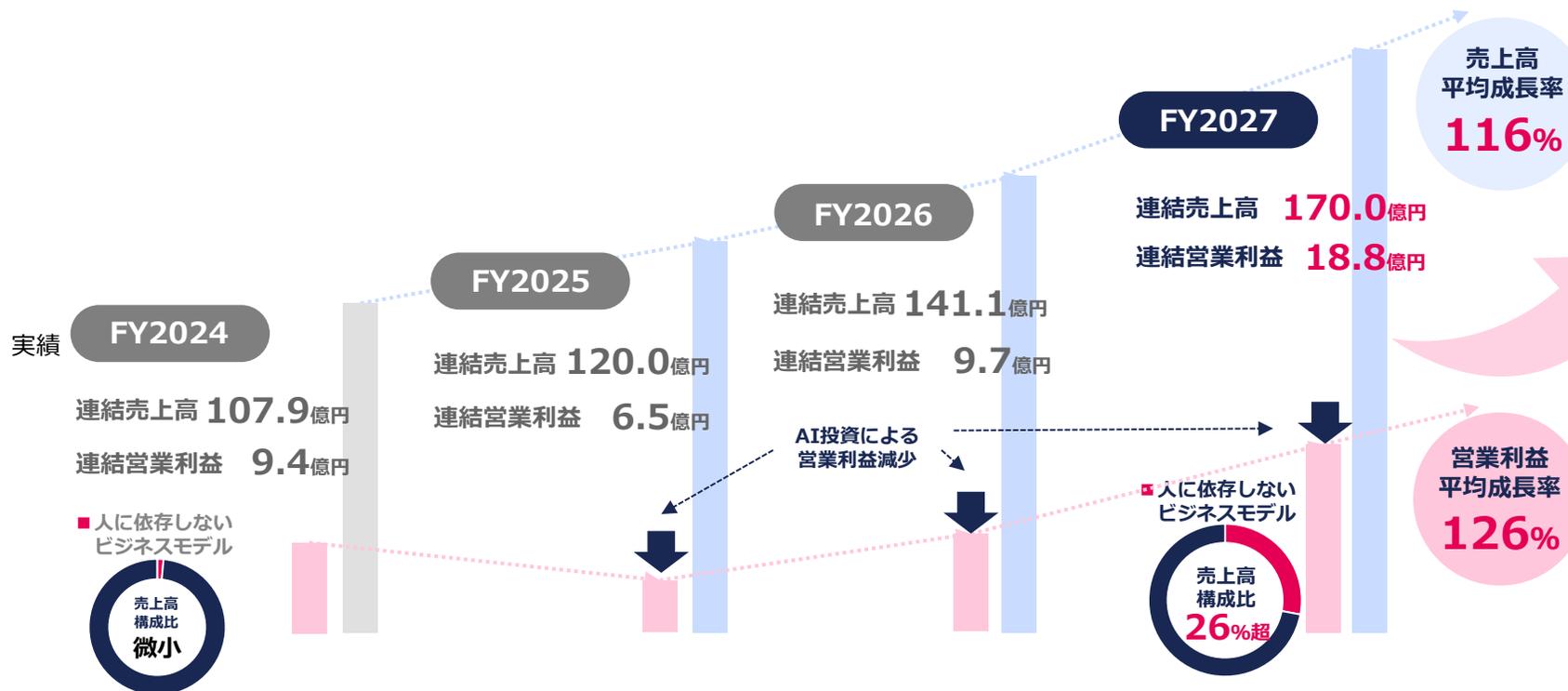
投資優先で成長によるキャピタルゲインで還元

■ 配当

3か年計 **2.4** 億円

■ AI開発応援・株主優待

3か年計 **2.4** 億円



10年先のVISION

バリューアッププラットフォーム

バルテス品質を業界へ波及

■ 人に依存しない
ビジネスモデル

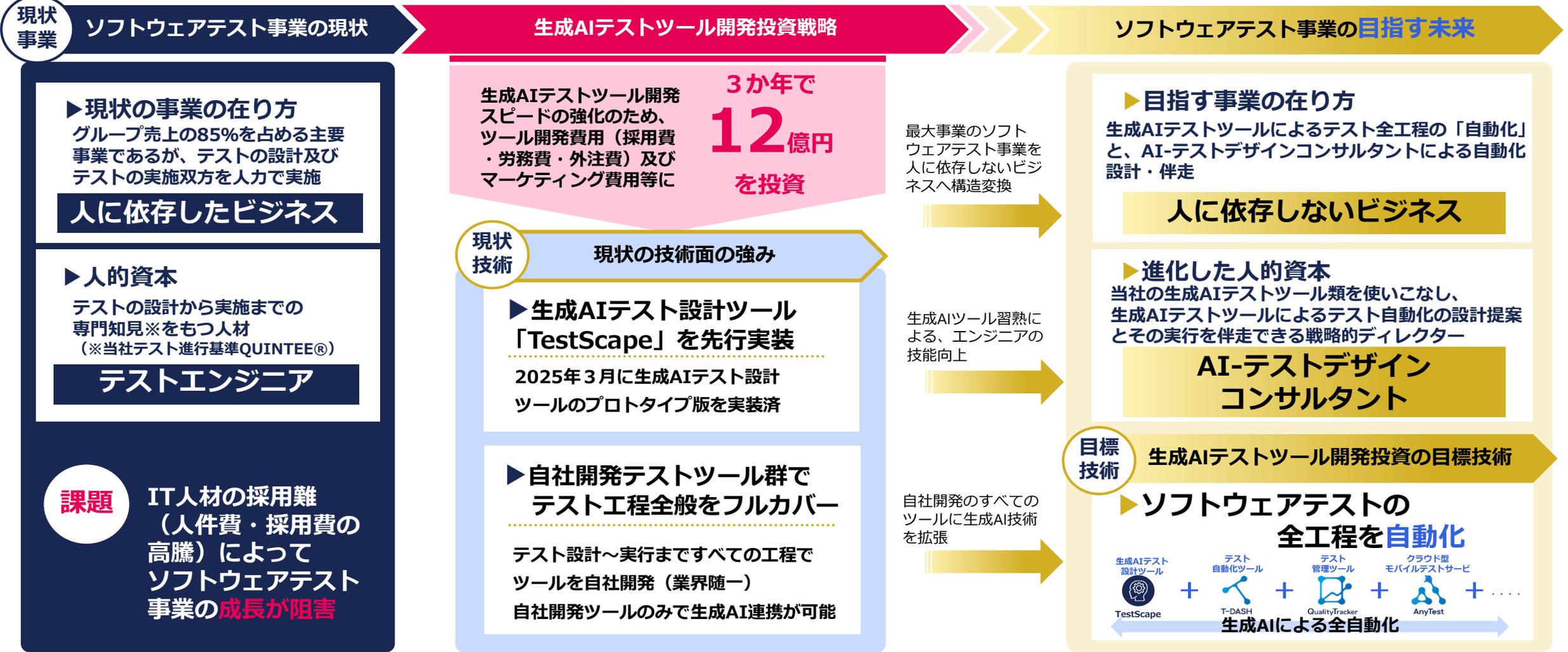
売上高構成比

80%超

重点施策「生成AIテストツール開発投資戦略」の骨子

▶ 新中期経営計画で新設

最大事業であるソフトウェアテスト事業の生産性向上と、IT人材の採用難克服で成長を持続

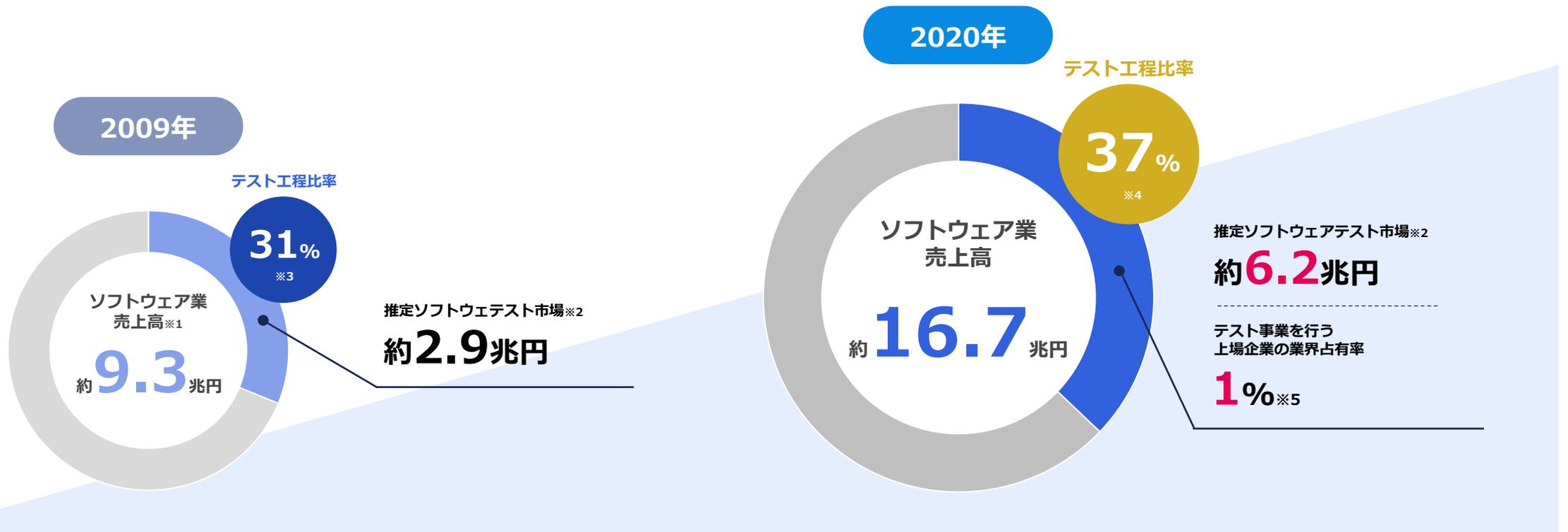


6

ソフトウェアテスト事業環境

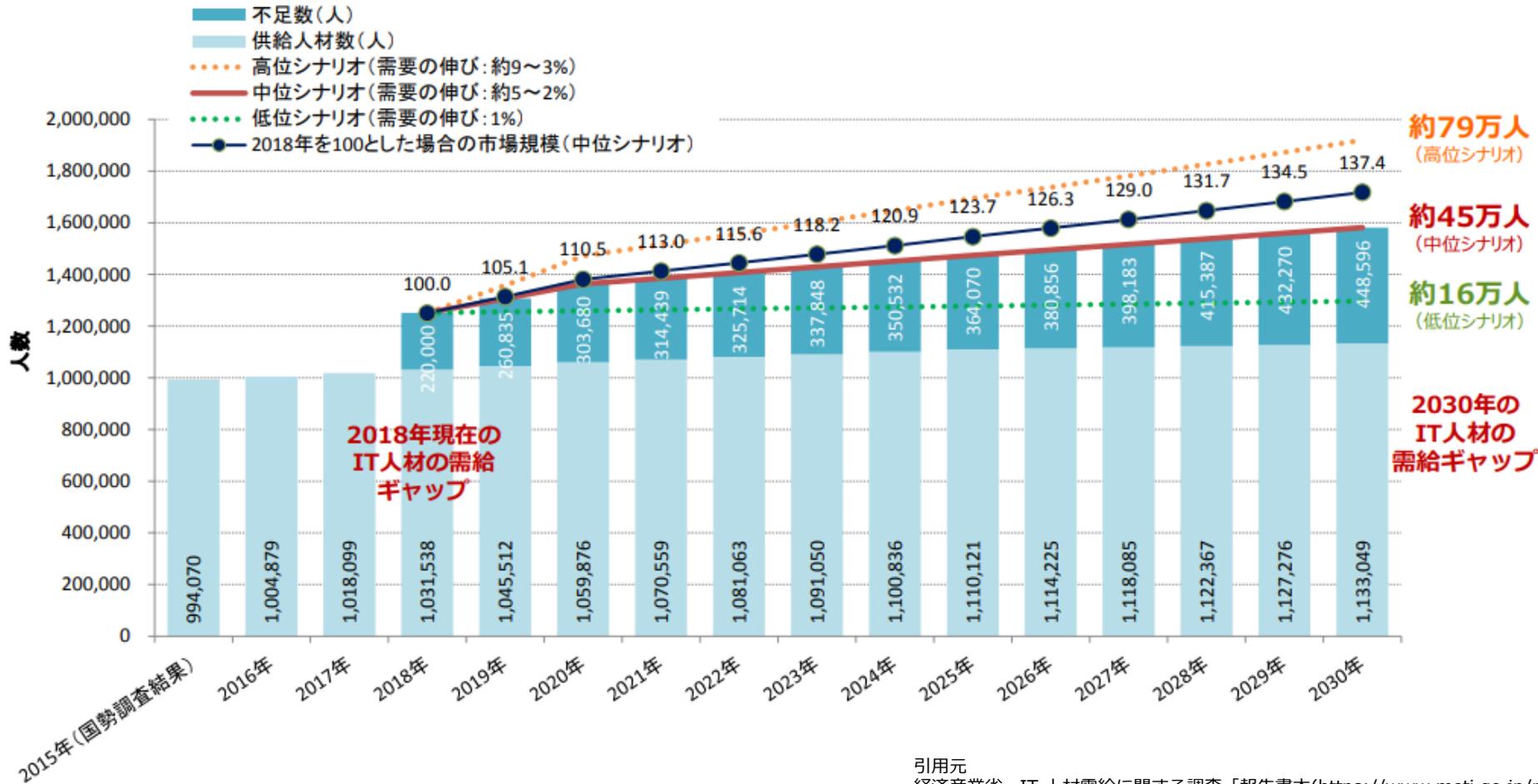
当社が推定する日本のソフトウェアテストの市場規模は約6.2兆円

■ ソフトウェア業売上高に占めるテスト工程比率の推移と市場規模推計



※1 総務省・経済産業省「情報通信業基本調査」より ※2 ソフトウェア業売上高に、テスト工程比率を乗じて算出 ※3 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発データ白書」より
※4 独立行政法人情報処理機構（IPA）「ソフトウェア開発分析データ集2020」より ※5 テスト・デバック事業をメインとする上場企業の売上合計より

ソフトウェアテスト市場規模拡大の一方、担い手のIT人材は不足

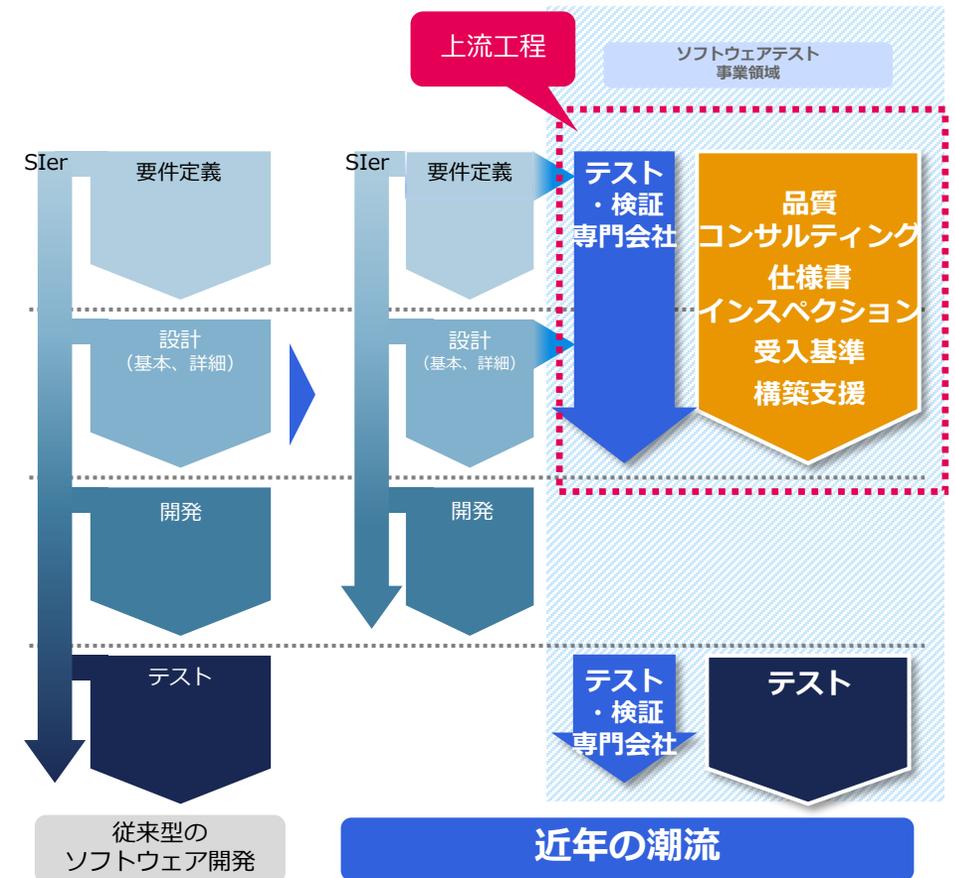


ソフトウェアテスト
専門業者への
需要は増加

引用元
経済産業省 IT人材需給に関する調査「報告書本(https://www.meti.go.jp/policy/it_policy/jinzai/houkokusyo.pdf)」
図 3-11 IT人材需給に関する主な試算結果①②③の対比(生産性上昇率 0.7% IT需要の伸び「低位」「中位」「高位」)

ソフトウェアテストは開発企業から**テスト専門会社**へ 品質向上を目指すユーザー企業など**上流工程**からの依頼も増加

	開発企業によるテスト	テスト専門会社によるテスト
品質	<ul style="list-style-type: none"> テストは開発エンジニアのモチベーションが上がらず非効率 開発エンジニア自身のテストは客観性が無く信頼性に欠ける 	<ul style="list-style-type: none"> 再現性・共有性の高いテスト方法やメソッドを確立網羅的で高効率なテストが可能 上流工程からの参画により、ソフトウェア自体の品質が向上
コスト	<ul style="list-style-type: none"> コスト高な開発エンジニアの労働時間の約40%がテスト工程 	<ul style="list-style-type: none"> 開発エンジニアのテスト実施と比べ60%~70%程度※で対応可 ※当社調べ 上流工程からの参画により、手戻りコストを削減
構造	<ul style="list-style-type: none"> 大手SIerが一括受注し、下請けに開発を発注、その開発エンジニアがテストも実施 	<ul style="list-style-type: none"> 第三者のテスト専門会社によるテストの有効性が注目 ユーザー企業など上流工程からの依頼も増加





自社の強み

人的・技術的優位性

- ソフトウェアテストに関する専門教育を受けた正社員500名超
- JSTQB※1高保有率
- ISTQB※2 Global Partner 日本初認定
- 年間約4,000※3プロジェクト、1,200社以上の導入実績
- プロジェクトを通じた様々な業界におけるナレッジの蓄積
- 専門技術人材を供給可能な外部協力会社ネットワーク
- ISO/IEC/IEEE 29119※4準拠テンプレート
- QUINTEE®※5（テストの進行基準）

※1 JSTQB(Japan Software Testing Qualifications Board)とは、国内のソフトウェアテスト技術者認定組織のこと
 ※2 ISTQB(International Software Testing Qualifications Board)とは、世界130カ国のテスト技術者認定組織のこと
 ※3 ツール案件を含む
 ※4 ISO/IEC/IEEE 29119とは、ソフトウェアテストの統合的な国際規格のこと。ISO、IEC、IEEEという3つの標準化団体が合同で策定しているため、この名称で呼ばれる
 ※5 QUINTEE®とは、当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したもの

エンタープライズ領域へのナレッジ蓄積

- 潜在市場が大きい、高度な技術を要するエンタープライズ領域拡大のため専門部署を設置
- エンタープライズ領域における専門ナレッジの蓄積

エンタープライズ領域の特長

- 単価：高 案件規模：大 契約期間：長
- 開発、業務知識等、テスト以外の知識を求められる
→ 難易度：高 参入障壁：高
- マイグレーション等※6の増加で市場：拡大 潜在市場：巨大

	当社の事業領域	潜在市場規模	市場ステージ	参入障壁
テスト 工程 市場	エンタープライズ	巨大	黎明期	高
	組込み	大	黎明期	高
	Web・スマホ	中	成長期	中
	エンターテインメント	小	成熟期	低

※6 ソフトウェアやハードウェア、システム、データ、開発言語などを別のプラットフォームに移行したり、新しいシステムに切り替えたりすること

専門性の向上によって強固な参入障壁を構築し、価格競争を回避

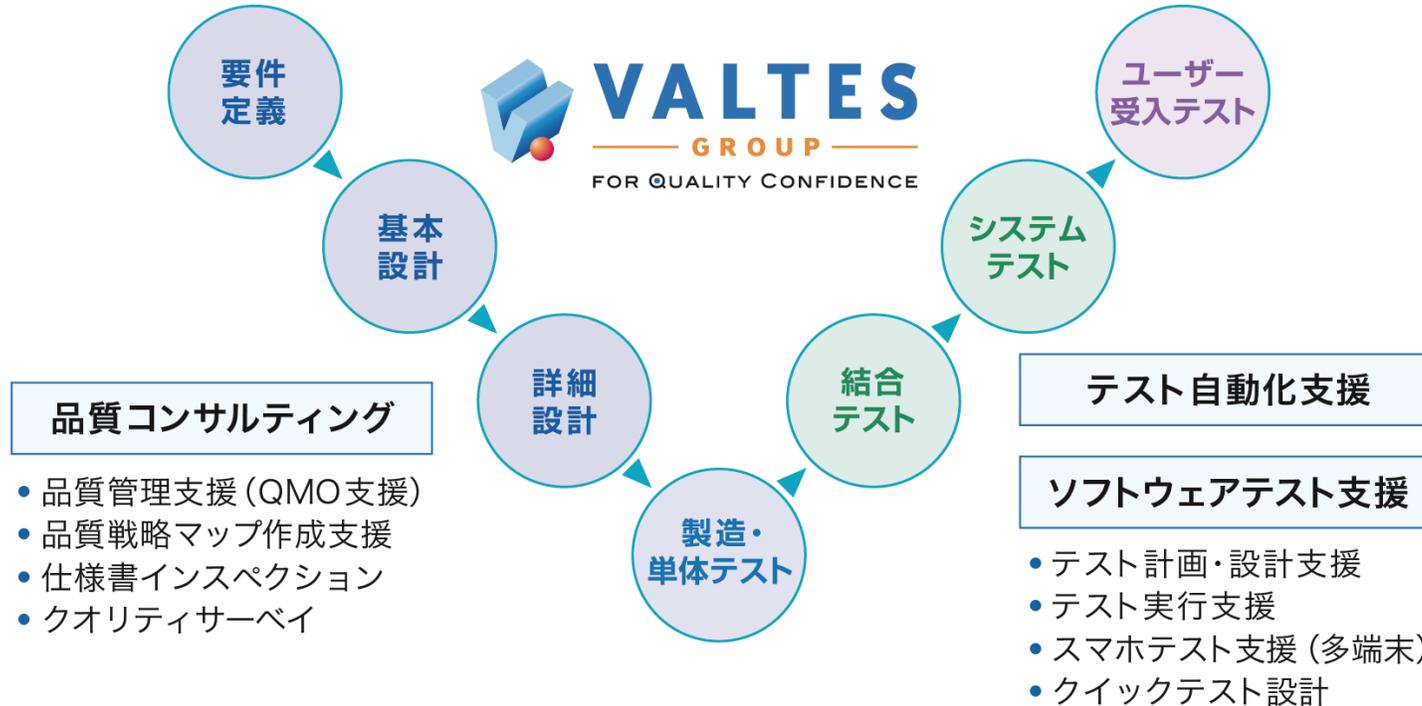
自社の強み② バルゼミを始めとした人材育成コンテンツ 人材早期育成メソッドの充実

バルゼミを始めとした育成コンテンツ・メソッドの充実で**早期人材育成が可能**



自社の強み③ 要件定義、基本設計等の上流工程から ソフトウェア品質向上支援サービスを提供可能

ソフトウェア開発の全工程で、ソフトウェア品質向上支援サービスを提供



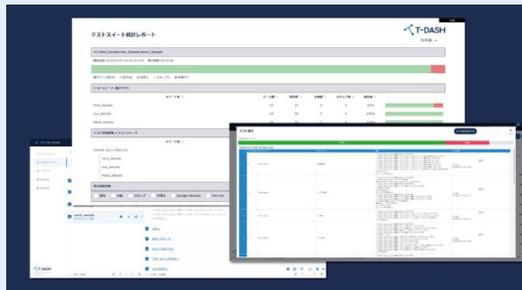
総合的ソリューション提供で
顧客IT部署の**負担軽減**と
工数削減による
コストメリットの提供が可能

マイグレーションテスト支援	DX支援	非機能要求	品質教育 (バルカレ)
アジャイル開発テスト支援	<ul style="list-style-type: none"> AIプロダクト品質向上支援 ローコード品質向上支援 	<ul style="list-style-type: none"> 脆弱性診断 (Web/モバイル/IoT) パフォーマンステスト 	<ul style="list-style-type: none"> 企業向け講座 オープン講座 eラーニング バルデミー

自社の強み④ ソフトウェアテストサービスの実績に基づいた テスト自動化・管理ツール等を自社開発

ソフトウェアテストを効率化し、**高品質とリリースのスピードアップ**を実現

■ テスト自動化ツール



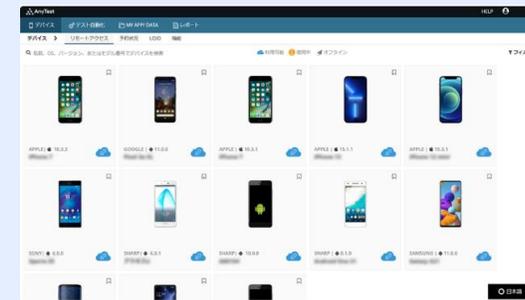
日本語で作成したテストケースで
自動テストを実現したテスト自動化ツール

■ テスト管理ツール



テスト実施に特化した管理ツールEVMによる管理で、
品質向上の見える化を可能に

■ クラウド型モバイルテストサービス



ブラウザ上でスマートフォンの実機を操作できる
クラウドサービス実端末の購入・保管・移動などの
手間を軽減

顧客・業界に
**品質向上及び
開発短期化メリット
を提供**

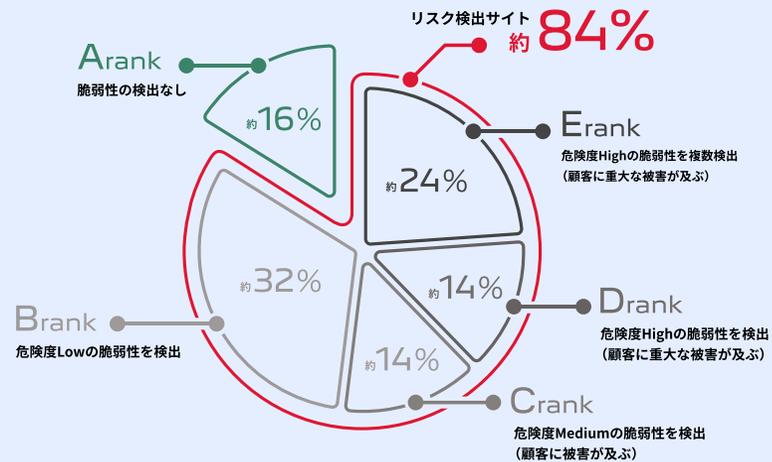


品質支援向上テストツールの詳細については、当社ホームページ サービスサイトをご覧ください。

<https://service.valtes.co.jp/s-test/tool/>

脆弱性診断を始めとしたセキュリティサービスの拡充

脆弱性診断



※2020年1月～2020年12月までに当社がセキュリティ診断を実施したサイトの一部から抜粋

診断結果の約84%のサイトで危険なリスクが検出された！
1,000件以上の実績により、
ツールでは見つからない脆弱性※も多数検出

※ なりすましが出来てしまうアクセス制限に関する脆弱性

セキュリティサービス



ペネトレーションテスト (侵入テスト) サービス

セキュリティ対策の専門家が、実際に攻撃者と同じ視点・手法でシステムに侵入を試み、リスクや脆弱性を評価



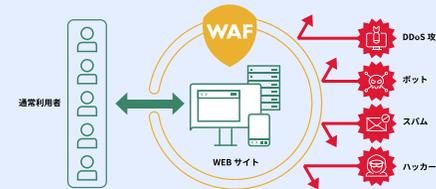
クラウド診断サービス

クラウドプラットフォームやシステムの利用状況におけるセキュリティ上の問題を診断



セキュアプログラミングのソフトウェア品質セミナー

安全なWebサイト構築のためのセミナーを実施



WAF PrimeWAF

Webアプリケーションの脆弱性を悪用した攻撃からサイトを保護するセキュリティ対策サービス。セキュリティ診断・脆弱性診断に実績があるバルテスが提供する新たなクラウド型WAFサービスPrimeWAFを展開。

当社が主力とする品質向上サービスと併せてセキュリティに関するトータルな提案が可能



セキュリティサービスの詳細については、当社ホームページ サービスサイトをご覧ください。 <https://security.valtes.co.jp/>

ソフトウェアテスト専門事業者としての豊富な実績を活かした生成AIテスト設計ツール「TestScape」

蓄積された実績とテスト基準

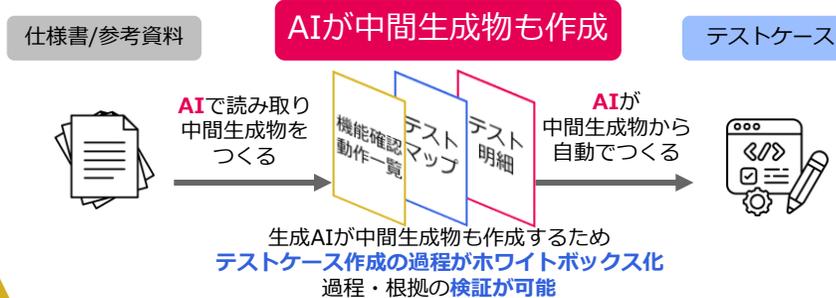
- 直近年間約4,000※1プロジェクト、1,200社以上の導入実績
- ソフトウェアテスト専門事業者として20年を超える業歴・膨大なテスト実績
- プロジェクトを通じた様々な業界におけるナレッジの蓄積
- ISO/IEC/IEEE 29119※2準拠テンプレート
- 当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したテスト進行基準「QUINTEE®※3」

※1 ツール案件を含む
※2 ISO/IEC/IEEE 29119とは、ソフトウェアテストの統合的な国際規格のこと。ISO、IEC、IEEEという3つの標準化団体が合同で策定しているため、この名称で呼ばれる
※3 QUINTEE®とは、当社がソフトウェアテストを主軸に、品質向上・生産性向上に関連する知見を体系化したもの

当年3月
生成AIテスト
設計ツール
「TestScape」
プロトタイプ版
を自社実装

中間生成物の作成で生成AIの透明性確保

バルテスの生成AI 過程や根拠が説明できる！



他の生成AI 過程や根拠が不明



他の生成AIの場合、テストケースのみ吐き出す仕様のものが多く、裏付ける中間生成物が存在しないブラックボックス

高精度・透明性の
高い生成AIテスト
ツールの開発で
競争優位

ツールの利用で
生産性向上

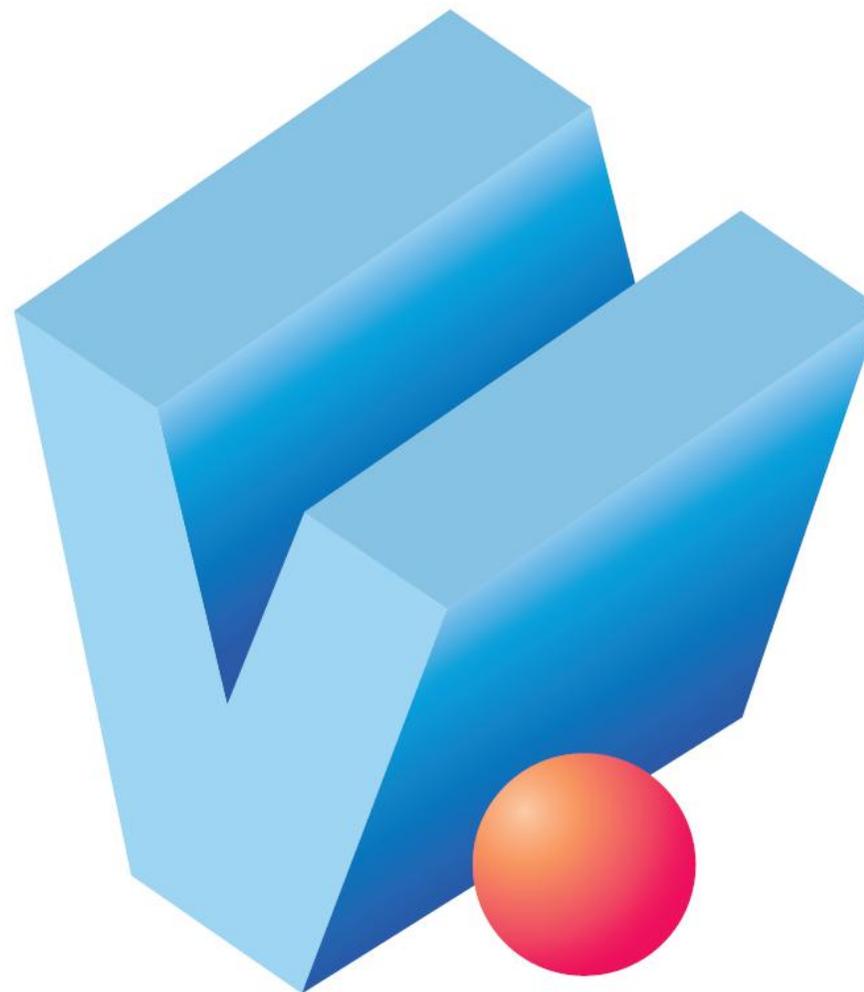
8

会社概要

FOR QUALITY CONFIDENCE

品質向上のトータルサポート企業

バルテスグループは、品質向上のトータルサポート企業として、ソフトウェアテストをはじめ、さまざまなサービスを提供しています。世の中のあらゆるものに組み込まれるソフトウェアの品質を守り、向上させることで、安心・安全な世界の実現に貢献します。



「品質向上のトータルサポート企業」経営方針に掲げ、事業を展開

会社名	バルテス・ホールディングス株式会社
会社設立	2004年4月 ※2023年10月持株会社体制移行により社名変更
上場	2019年5月 東証マザーズ (現 東証グロース 証券コード: 4442)
本社住所	大阪市西区阿波座 1-3-15 (大阪本社)
事業内容	ソフトウェアテストサービス 品質コンサルティングサービス ソフトウェア品質教育サービス セキュリティ・脆弱性診断サービス
グループ会社	バルテス株式会社 バルテス・イノベーションズ株式会社 (4月1日バルテス・モバイルテクノロジー株式会社がフェアネスコンサルティング株式会社を吸収合併) 株式会社アール・エス・アール 株式会社ミント 株式会社シンフォー VALTES Advanced Technology, Inc. (Philippines) タビュラ株式会社
従業員数	962名 (2025年6月末時点 グループ8社計)
内、総エンジニア数	833名 (2025年6月末時点 グループ8社計)
総資産	6,239百万円 (2025年6月末時点 グループ8社連結)



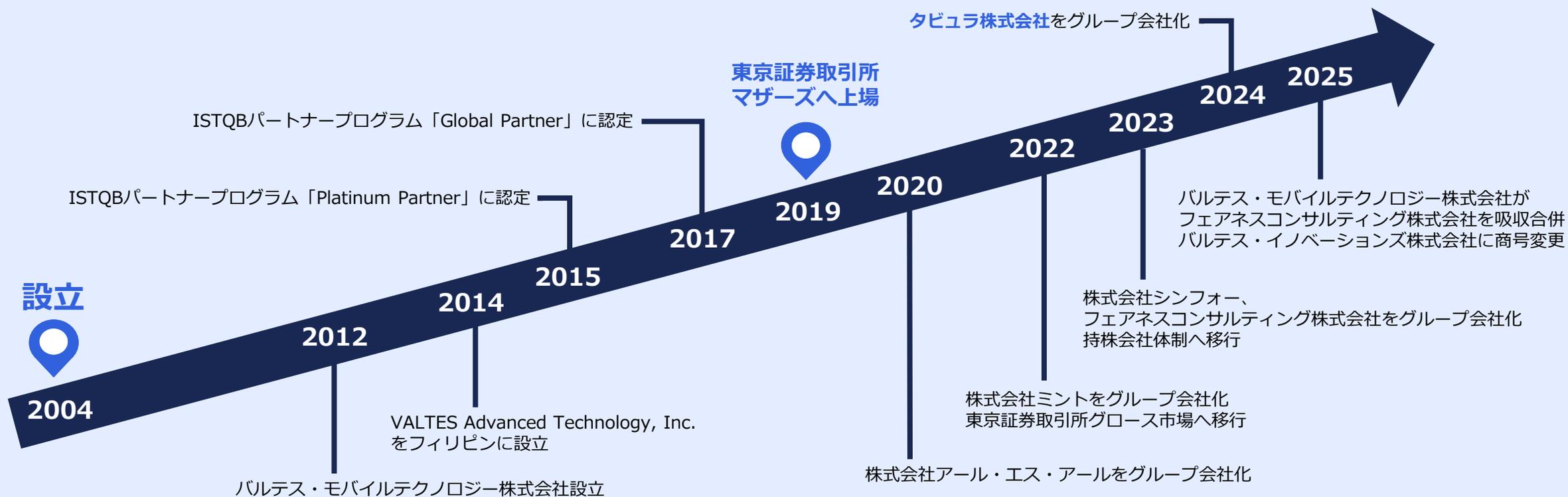
代表取締役会長兼社長

田中 真史

Tanaka Shinji

2004年4月、設立。ソフトウェア品質に関わるサービスを提供。

ソフトウェアテスト専門会社として、年間4,000件※以上のプロジェクト実績



※ ツール案件を含む

持株会社（当社）



グループ経営管理機能／教育関連機能

事業グループ会社※



事業推進・執行機能

サステナビリティ委員会の設置

サステナビリティに係る取組みや、環境・人権方針の策定、当社グループへの浸透と進捗状況のモニタリングを実施



社外取締役の積極登用

高度な専門性を持つ社外取締役の登用で、当社グループの成長加速とガバナンスの強化へ



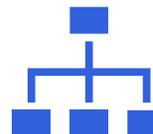
取締役7名中、
過半数の5名が社外取締役

監査等委員会設置会社への移行



取締役の職務執行の監査等を担う監査等委員を取締役会の構成員とし、取締役会の監督機能を強化

持株会社体制への移行 執行役員制度の導入



持株会社及び各事業会社の権限と責任を
明確化及び管理機能の集中化、
迅速な意思決定と適切なモニタリングの両立と、
経営重要事項の決定・監督を担う取締役会と執行責任を負う
執行役員との役割分担明確化及び機能強化を目指す

Create Wellness

人と社会に品質を

当社グループでは、「人と社会に品質を」を合言葉に、豊かな知見から生まれた教育プログラムと安心・安全を支えるサービスの提供を軸としたサステナビリティ活動を推進しています。

次の時代を担う人材（Employee）を育成することで、環境（Environment）と社会（Society）への取り組みを加速し、コーポレート・ガバナンス（Governance）体制を強化していく「E+ESG経営」を実践しています。



取り組みの詳細については、当社ホームページ サステナビリティサイトをご覧ください。

<https://www.valtes-hd.co.jp/sustainability/>

バルテスグループ×SDGs



ご留意事項

本資料には、当社グループの現在の計画や業績見通しなどが含まれております。

これらの将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに
当社が計画・予想したものであります。

実際の業績などは、今後の様々な条件・要素により、

この計画・予想などとは異なる場合があります、

この資料は その実現を確約したり、保証するものではありません。

なお、この資料への公認会計士、監査法人の関与はございません。





VALTES

— **GROUP** —

FOR QUALITY CONFIDENCE